

平成29年度 入学式 式 辞

桜のつぼみもほころび始め、春の訪れを感じさせる今日の良き日に、上田良介兵庫県議会議員様をはじめとしますご来賓の皆様、新入生の保護者の皆様のご臨席のもと、平成29年度兵庫県立村岡高等学校入学式を執り行うことができますことは、私どもにとってこの上ない喜びであり誠に嬉しく存じます。本校を代表し深く感謝申し上げます。

先ほど入学許可をされた第58期生65名の皆さん。ご入学おめでとうございます。職員一同、心より歓迎いたします。

そして保護者の皆様、お子様のご入学誠にありがとうございます。これまでお子様を育ててこられました皆様のご尽力に心より敬意を表しますとともに、私たち教職員に課せられた責任の重さに身の引き締まる思いでございます。どうか本校の教育活動にご理解ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

さて、昨年度の選挙年齢引き下げに伴い、高校3年生に当たる18歳から選挙に参加できるようになったことで、高校生の社会的な責任も随分と重くなってきました。友人関係、学習面、部活動、進路実現、職業選択など人生の大きな分岐点となる年齢でもあります。その重要な時期をいかに過ごすかは、自分の人生を大きく左右することにもなります。自分自身に自信を持てるように、また自信を持って進路実現を図っていけるように日々の生活の中で自分磨きをしてください。私たちは、一生懸命に自分磨きをする生徒を全力で応援します。方法がわからなかったり、悩んだり、落ち込むことがあったりすることもあるかと思いますが、そんなときは恥ずかしがらず相談に来てください。きっと皆さんにとって良い答えが見つかると思います。

またそのような時、「あいだみつを」さんの次の詩を思い出してください。

「自分の番 いのちのバトン」
父と母で二人 父と母の両親で四人
そのまた両親で八人
こうしてかぞえてゆくと
十代前で 千二十四人
二十代前は・・・
なんと百万人を超すんです
過去無量のいのちのバトンを受けついで
いまここに 自分の番を生きている
それがあなたのいのちです
それがわたしのいのちです

という詩です。自分という存在をこのような命のバトンという視点で見ると、自分という存在がすごい存在だと思いませんか。そして、自分ひとりで生きているようでも、実際には多くの方が自分に関わってくれていたことがわかるでしょう。そして、自分は生かされていることが分かると思います。何かをする時、周りのことを考えて、相手も生かされている、その人だけではなく、その人に関わる人がいるということを感じることができれば、悩んだり落ち込んだりしても、その状況を受け入れ、自分一人ではない、今を一生懸命に生きるということが大事なことだと気づくでしょう。そして、感謝の気持ちがわいてくるはずですよ。

今この時を生かされている自分が、次に生かされる人たちのためにできることをしっか

りと考え、感謝の気持ちを伝えていくことが、あなたたちの役割ではないでしょうか。

村岡高校では、地域のことを勉強し、地域を元気づける、地域とともに生きることを学んでいきます。活動させていただいている、教えていただいているという感謝の気持ちを持つことでその学習は深まっていくでしょう。地域の方々も村岡を元気にするには村岡高校の生徒が必要だ、村岡高校の生徒に頑張ってもらいたいという思いをもっています。

本校の教育指針に「人みな使命あり」とあります。村岡を元気にするため皆さんが学習したこと考えたことを社会に発信していくことでその使命を果たしていきましょう。

最後に、自分の番を生きていることをしっかりと受け止め、皆さんが元気に生活することが家族を元気に、学校を元気に、地域を元気にすることにつながるということを忘れないでください。

職員一同、皆さんの成長を心から願っています。そして、みなさんをしっかりとサポートしていきます。皆さんの今後の頑張りと活躍を期待しまして式辞とさせていただきます。

平成29年4月10日

兵庫県立村岡高等学校

校長 若浦直樹